

「コアラ親善大使」旅立つ

パペットフェスタで壮行会



▲三原高校・三原中学校・南淡中学校合同の三味線演奏

第25回淡路人形浄瑠璃後継者団体発表会「パペットフェスタ in 淡路島」が7月20日、三原公民館大ホールで開催されました。

市内の小中高校の郷土部や子ども会、社会人で結成された7団体が、日頃の練習の成果を披露。観客を魅了し、大きな拍手を受けました。また、今夏、南あわじ市から西オーストラリア州へ、淡路人形浄瑠璃の海外公演として派遣される、三原・南淡中

学校の郷土部員の壮行会も、この席上で行われました。これは同州から贈られたコアラが南あわじ市に来て20周年になるのを記念したもので、感謝の意を込めて同部が公演を行い、交流を深めるものです。生徒16人を含む29人が7月30日から8月4日まで「コアラ親善大使」として旅立ちます。壮行会では、中学生が「淡路人形浄瑠璃のすばらしさをしっかりと伝えてきたい」と力強く挨拶しました。

葉っぱの日よけで暑さカット

市役所にゴーヤを植える

最高気温30℃。夏真っ盛りの南あわじ市で、ゴーヤの葉っぱでできた日よけができました。場所は、緑庁舎の裏側と三原公民館の玄関。緑庁舎では実の収穫も行われています。

このゴーヤは、今年6月頃に植えたもの。約2か月で高さ3m前後にまで育ちました。ビッシリと葉が生い茂ったゴーヤは自然のカーテンのようで、夏の遮光対策として効果抜群。室温上昇では、2

〜3℃抑制、西日を受けているような場所では、それ以上に効果が上がるようです。来庁者からも黄色い花が緑のキャンパスに映えて見栄えがよいと好評です。アイデアを出して日よけ対策を試みた職員の一人名は、「エコ対策になるだけでなく、冷房費削減の経済効果も期待できる。エアコンの温度設定とあわせて、できることはやっていきたい。来年はもっと広められれば」と話していました。



▲緑庁舎の裏（西側）で実をつけたゴーヤ

子どもたちの夏！到来

わんぱく塾開催中

夏の日差しを浴びて元気いっぱいの子どもたち。「わんぱく塾」の夏の教室が始まりました。

市内全児童を対象に5月から始まったこの塾では、農業体験や海洋スポーツ体験など、地域の特性を活かした体験教室を年間を通して開催。

活動を通じて、子どもたちに協調性や郷土愛、創造力を育んでもらう楽しい教室です。まだ、これから参加可能な教室もありますのでお問い合わせください。

☎ 37・3020
■生涯学習文化振興課

▼リトルファーマーズ



▲わんぱく海洋クラブ



▲子ども和太鼓教室



▲瓦でオリジナル作品づくり

子どもたちに自尊心を 青少年健全育成市民会議

7月12日、西淡公民館大ホールで、「青少年健全育成市民会議」が行われました。

この会には、青少年の健全育成に関わる各種団体のメンバーや教育関係者ら300人が出席。現在の社会情勢に即した青少年支援のあり方などを学習しました。

京都教育大学の安東茂樹教授による講演では、来年から導入される新学習指導要領や、これによる学校教育現場の変化などを紹介。参加者に「現在の青少年問題の多くは、自尊心の欠如が原因。子どもたちに自尊心情



▲熱心に講師の話に耳を傾ける参加者

が芽生えるように、家庭や学校、地域で温かく接してあげてほしい」と述べられました。

ふれあい市長室

市民主導のまつり運営に

まちづくりの明るい未来を確信！

南あわじ市長 中田勝久

南あわじ市には4つの市民まつりがあります。

夏本番を迎え、恒例の「慶野松原花火大会」では多くの家族連れや、カップルの方々に楽しんでいただいております。

市民まつりを各地域で開催することについて、「本化の意見も賜ってはおりますが、各地域がそれぞれの特徴を活かしたまつりを実施することに大きな意義を見出し、熱い思いで実行委員会を立ち上げ、企画立案、運営、協賛のお願い、また片付けに至るまで、地域の皆様が主体的に取り組まれております。1つのイベントは、先頭になって走り回る人、裏方でコツコツとお手伝いをする人、その人その人の持ち味を活かして出来あがるもの。

当日の成功は、それで迎えることができるのです。当日、挨拶で舞台上上がる時、そのような方々に心から感謝とお礼の気持ちでいっぱいになります。

今年4月に「淡路だんじり祭」を開催しました。24台もの煌びやかで豪華絢爛なだんじりが健康広場に一同に会したまつりには、島内外より多くの方々にお越しいただき、老若男女を問わず、満喫いただいたと確信しております。

これから予定されているまつりは、「福良湾海上花火大会」と「食と文化の市民まつり」があります。8月の福良の大綱曳きでの男衆の勇姿は、迫力満点で見ごたえがあり、夜空を彩る大輪の花火も見

逃せません。10月の「食と文化の市民まつり」は、南あわじ市で育まれた食を存分に活かした、まさしく食の祭典であり、秋ならではの文化的な催しの中で人と人との温かいふれあいを感じていただければ幸いです。

4つのまつりは、それぞれの地区の皆様の主体的な運営により支えられており、類似したものがないため、どのまつりに参加していただくのも他のまつりにはない特徴を満喫できます。

郷土に育まれた人々が、わが郷土を愛し、また郷土を育んでいく。その循環は、まちづくりの流れに通じていきまします。まちづくりパワーの源は、まつりの運営の中にも垣間見ることが出来ます。皆さん！地域がプロデュースする特色あふれる市民まつりに是非ご参加ください。そして、ここにまちづくりの原動力となる人々の熱いエナジーを感じていただければ幸いです。

犯罪や非行のない「明るい社会」を



▲啓発物を買った物客に配る関係者

犯罪や非行を予防し、あやまちを犯した人の立ち直りを地域社会の中で支える「更生保護」活動。この活動を多くの人に知ってもらおうと、少年への更生保護を行っている保護司や更生保護女性会、BBSなどで組織する市実施委員会（会長・中田勝久南あわじ市長）が、7月に「社会を明るくする運動」を実施しました。この運動は法務

省が主催する全国的な運動で、今年で58回目。7月1日には、市内の

量販店で、買い物客に活動を紹介したチラシなど1200セットを配布し、

「安全で安心して暮らせる明るい社会を築きましょう」と呼びかけていました。